

発行/中野島地区社会福祉協議会
川崎市多摩区登戸1891
第3井出ビル3階
福祉パルたま内
地域課:電話:935-5500
FAX:911-8119
発行人/田村 弘志
編集人/ 総 務 部



なかのしま

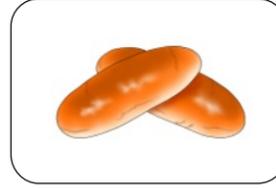
2022. 1. 15 No.42 (年2回発行)

中野島地区社協のテーマ

この地域
誰もが暮らしやすい
中野島・布田

この広報紙は、皆様からの
会費で作られています

戦後の社会事情が落ち着いてきて、特に食べ物にも余裕が出て来ました。パン屋さんは戦前から登戸に後藤パン屋さんがありました。山型の食パンは粉を持って行き作ってもらった記憶があります。息子の後藤君は登戸小学校の同級生でした。中野島にもパンの販売店が出来ました。現在は川信中野島の所に5軒の借家がありました。が道路に面した足立さんの奥さんがパン屋さんを始められました。私はすぐくうれしく誇らしく思いました。現在はこの商店街にも製造販売店が主流ですが、仕入れ販売のお店でした。サンドイッチや各種の菓子パンは有りませんし売っていたのはコッペパンだけでした。イチゴジャムかマーガリンを注文すると、パンに切り込みをいれてぬって新聞紙につんでくれました。足立さんのご主人は、昭和35年に登戸小学校から分離独立して、中野島小学校が開校しましたが、



色んな店が開業し飲み屋さんも出来ました。今風に言うとう酒屋屋さんです。中野島公民館は令和2年に閉鎖されましたがその横にありました。公民館は中野島の農家の人達の桃や梨の出荷場として使われていましたし、生産組合、町会、青年会、老人会の集会所として利用されていきました。夜昼とおして多くの方が集まる場所だったので。私はお酒を家で飲まないで、どうしてわざわざ出かけて行って飲むのが不思議でありませんでした。夏になるとかき氷もやっていましたので子供達にもなじみ深いお店でした。私はみつ豆の味を今でもおぼえていますし、みつ豆を始めて食べたのもこのお店でした。



戦後の頃の食料の思い出(その3)

何代目かのPTAの会長をされました。

中野島のこんなこと知っていますか
田村 弘志

長いコロナ禍の暗いトンネルはやっと抜け出せそうです。中野島地区社協の活動は多くの制限の中停滞してしまいました。今後はニューノーマル時代にふさわしく試行錯誤をしながら手探りでの活動となります。例えば会場の人数制限、飲食提供での場所と人数制限などは今年も続くと思われまます。コロナ禍は今のまでの社会状況を一変させました。子供たちの学校生活でも長い休校の後小学校、中学校や高校でもリモートでの授業が続きましたがやっと正常授業になりました。当然大学生は多くの人達との触れ合いの中での人生経験を積む大切な時に貴重な時間を失ってしまいました。アルバイトも出来ず生活も苦境に落とされてしまった学生も多く出てしまいました。新しい生活の中で孤立感や不安を感じたことでしょう。しかしこんな経験により地域のことを考たり、貴重な体験をした学生の意見を新聞記事で読みました。この大きな時代の変換の時に若者は人生での大切な事を体得したのだと思います。小学生は今ではタブレットを自由に使いこなせるようになってきました。社会人たちの生活スタイルも大きく変わりました。勤務方法が家や近くのレンタルオフィスでのリモート勤務に変わった人も沢山います。会社ごと地方へ移転なども出て来ました。家庭内での役割も大きく変化しました。さらに

新しい年を迎えて

会長 田村 弘志

オリンピックによりジェンダーや人種問題、各種競技の指導者の問題が提示され議論され、改善された問題も沢山ありました。今後も多くの分野で引き続き議論され変わって行くでしょう。このような私たちがかつて経験しなかった社会の変化の中で、この地域に住む多世代の人々が互いに自分の力に依り助け合ひにより豊かな地域コミュニティの構築を目指して励んで行きましょう。絶対やらなければならない活動を厳選し皆様と共に地域社会の向上とニーズに対し力をあわせて活動して行きたいと思ひます。今年も皆様のご協力を宜しくお願ひ致します。

暮らしやすい地域作りへの一言

カリタス学園後援会
会長 石森 文雄

新年あけましておめでとうございます。皆さまが健やかに新年を迎えられたことを、心よりお喜び申し上げます。



日頃より、地域諸活動へのご尽力、厚く御礼申し上げます。民生委員の皆様をはじめ地域にお住まいの皆様、のたゆまぬご努力を持ちまして、当地域の社会福祉活動が支えられていると思っております。また2年前の5月に大変痛ましい事件がおきてしまった際にも、学園の教職員並びに父母のみならず、地域の皆さんの見回りなどのご対応を頂き感謝申し上げます。子供たちにとりまして皆様の温かい見守りによって安心して通学できていると思っております。一年半前より発生した新型コロナウイルス、地域と学園の交流なども難しい状況ではありましたが、感染者の減少に伴い少しずつ明るい兆しが見られてきております。また色々な面で再開できればと祈念しております。地域の皆さまにおかれましては、より一層のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様方にとって幸せで希望に満ちた飛躍の年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。まして新年のご挨拶とさせていただきます。



中野島多世代つながり 愛プロジェクト

つなげよう みんなの『愛』すこしづつ

【プロジェクトの背景】

昔は向こう三軒両隣の関係がありました。今はお隣さんの顔も知らないという方も多いのではないのでしょうか。子育て世代もシニア世代も孤立や孤独に悩む方は多くいます。コロナ禍で交流がしにくい。今、そのような悩みを持つ方は、より増えているように感じます。中野島多世代つながり愛プロジェクトは、『子どもの健やかな成長の



【これまでの経過と活動】

このプロジェクトは平成二十八年から始まり、今年で六年目になります。町会や自治会、地区社協、民生委員、小学校や中学校、保育園やこども文化センター、NPO団体など中野島地区のさまざまな団体と一緒に、東京都健康長寿医療センター、区役所で活動してきました。平成三十年十月以降は東京都健康長寿医療センターが協定を終えたため、地域の団体と区役所で運営しています。(※図2)

喜びを全ての世代が共有できるまちづくりを目標にしています。地域の子育て世代、シニア世代が挨拶や交流などを通して顔見知りになり、いざれは電球を取り換えるのを手伝ってもらったり、手が空いている方に子供を見てもらったりなど、自分達のできる範囲でちょっとした困りごとを助け合えるような地域を目指し活動しています。(※図1)

全国へお花が贈れます
花キューピット
おかげさまで45年
フローリスト GREEN PARK
グリーンパーク
〒214-0012 川崎市多摩区中野島6-25-6
TEL 044-933-8184 FAX 044-932-9606

今回は中野島3丁目在住の中村さんに提供いただいた、昭和43年頃の改修前上河原堰風景です
上左の写真は調布市側から撮った写真で中野島方面が望めます

なかのしま今昔

報告と説明がありました。続いて、参加者は4つのグループに分かれ、市担当者の説明を受けながら、河川の水位が上がり氾濫にいたる状況を想定したマイ・タイムラインの作成に取り組みました。各グループのテーブルでは、参加者が1から5までの警戒レベルに沿ってどのような行動を取るべきかを話し合い、自宅にある避難・防災用品の確認、土のうの準備、家の補修や補

ワークシヨップでは、最初に、市の河川課水防・河川管理担当者から2年前の東日本台風により多摩川、三沢川の水位が上昇し、河川や排水樋管周辺地域で浸水するなど、甚大な被害が発生したことを受けて、同地域において神奈川県と川崎市がこれまで実施した浸水対策(ハード及びソフト)事業について報告と説明がありました。

令和3年10月16日(土)午後2時から午後3時30分まで中野島会館において川崎市主催の令和元年東日本台風による浸水に関する防災ワークシヨップが開催され、中野島町会の防災委員と社会福祉協議会のメンバーなど21名が参加しました。

中野島地区防災研修会 開催報告

防災ワークシヨップ

〜マイ・タイムラインの作成〜

中野島町会防災委員会副委員長

井高 育央



今回のワークシヨップ参加により、避難までの流れとマイ・タイムラインの具体的なイメージを持つことができるようになります。また、防

災情報入手するには、メールニュースかわさきへの事前登録、かわさき防災アプリのダウンロード、近隣の川や水路の状況をリアルタイムのカメラ画像で提供している市のホームページの利用などが必要であることを認識しました。作成作業を終えるに当たり、市側からマイ・タイムラインは一度作成すれば終わりではなく、各人の環境の変化に

強、家族内での避難・防災のための役割分担、車の移動、常用車の事前準備、必要な物品を自宅の2階や3階に移動する、指定避難場所の確認、垂直避難のため親戚や友人の高層マンションなどに避難場所を確保する準備、隣近所との連携、防災アプリを利用するためのスマホの充電やモバイルバッテリーの準備など多くのアイデアが出され、次々とマイ・タイムライン表に記入していききました。

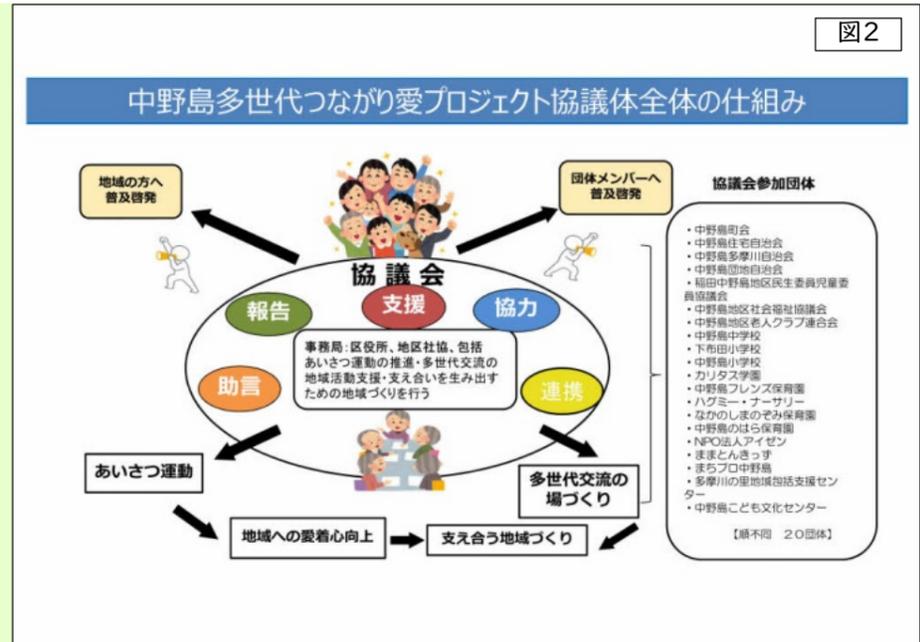


図2

①あいさつ運動
挨拶は関係構築の基本です。挨拶をしあえる地域は助け合いをしたり、暮らしやすさを感じたりします。これまでも地域の皆さんが、子どもの登下校の見守りをする際に積極的に挨拶をするなど、地域に根付いた活動をしてきましたが、それを強化するような取り組みをしてきました。

②まちプロ中野島
交流と居場所づくりの企画・運営を担うボランティアの方々です。高齢者支援、子育て支援、多世代交流についての研修を受けて活動を始めました。多世代交流の場で顔の見える関係づくり、住民同士の日常生活の困りごとの解決や、社会参加の機会を増やすことを長期的な目標としています。

前、各学校の校門に掲示しています。(※図3)「社会福祉のつどい」で表彰されました。町を歩かれた際はぜひ見てみてください。



図3

④協議会
プロジェクトを進めるために、協議会という話し合いの場を作り、意見を交換しながら活動しています。

⑤中野島多世代つながり愛フォーラム
プロジェクトの啓発、参加団体の発掘のためこれまで中野島多世代つながり愛フォーラムを3回開催しました。各団体の活動発表や、地域のお菓子を食べたりお楽しみとして地域で活動しているサークルや漫才の発表を見たりなどとても賑やかでした。コロナ禍でしばらくできませんでしたでしたが、また実施した際はぜひ地域の皆様もお越しください。(※図4)



図4

③多世代交流の場づくり
まちプロ中野島を中心に、多世代交流カフェ「ファミリアカフェ」を公民館で実施してきました。公民館が使用できなくなった現在は感染対策も兼ねてオンラインで実施しています。その他、ボールを持って多

「メールニュース川崎」事前登録



かわさき防災アプリのダウンロード



応じて行動も変わるので今後も適宜見直す必要があることなどが指摘されました。最後に、石山元一中野島町会長から、地域の防災のための市の取り組みへの謝意を表しつつさらなる事前対策の強化を要請する旨、また住民の方々へは、町会の自主防災活動への参加、協力をお願いする旨の挨拶がありました。

おばあちゃんの知恵袋

「トウガラシ風呂」でむくみ取り
足のむくみがひどいときには、唐辛子入りのお風呂に入りましょう。
辛み成分のカプサイシンは、胃液の分泌を促し、消化吸収を助けて食欲を増進させたり、血行をスムーズにして、体を温めたりする効果が期待されています。

① 湯船に唐辛子を1つ浮かべます。
② ふくらはぎなど気になる部分はすり込むようにして使います。

足がむくんだときは、唐辛子を食べると、辛みの主成分であるカプサイシンがエネルギーの代謝を高めて、血行を促しながら、体の冷えやむくみを改善してくれます。

稲田中野島地区民児協だより
昨年七月、櫻井操さんが新たに民生委員児童委員に委嘱されました。担当地域は中野島四丁目11-19と6の一部です。櫻井さんは長年町会でも活躍されてこられた方です。当該地域の皆さん、よろしくお願いたします。

現在、民生委員児童委員は「地域版活動強化方策」の作成に取り組んでいます。この事業は民生委員制度創設100周年(平成29年)に公表された活動の方向性を踏まえ、「わがまち」の活動の方向性を作成するというものです。作業にあたっては、まず私たちの住む地域の実情を把握し、次に課題を浮き彫りにしたうえで、当面力を入れて取り組んでいくテーマを明確にするというものです。

各人が民生委員の経験も異なり、生活スタイル(仕事をしている人、リタイアした人、地域の関わり)も違うなかで手探りで進めています。

この作業で得た教訓を今後の活動に生かし、住みやすい地域づくりの一助になればと願っています。

ボランティアや協議会の活動に興味がある方はご連絡ください!

連絡先
多摩区役所
地域みまもり支援センター
地域ケア推進課
(電話:044-935-3241)
地域支援課
(電話:044-935-3264)

良いところとしては、地形が平坦で自然豊か、スーパーや薬局、子育て世代やシニア世代の施設も多く生活しやすい環境であるという点や、子育て世代もシニア世代も地域活動が充実しているという点があります。課題としては、各団体の後継者、成り手が不足している点や、南側に公園やサロンが少ない子育て世代の出かけ先が少ないという点、シニア男性の閉じこもりやシニアの見守りが難しい点など様々なことがあげられました。

【今後について】
特に優先的な課題だと感じたものを検討し、
①「シニア・子育て世代の出かけ先が少ない、行きにくい」
②「情報収集の困難さがある」
③「プロジェクトが周知されていない」
④「防犯、地域での見守りについて」の4つの課題に着目しました。

令和4年度はこれらの課題に対して、個人・団体でできることなど検討していきます。今後も年1回地区協の広報紙でご報告させていただきますのでぜひご覧ください。